1.研修協力者基本情報シート（記入例）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 受講番号 | |  | | | 受講者氏名 |  | 印 |
|  | | | | | | | |
| Ⅰ．研修協力者の状況（３００字程度） | | | | | | | |
| Aさんは、当施設のショートステイを利用して3日経った。初日から毎日決まって夕方になると、「こんなことはしてられない、ご飯の支度をしないと、旦那に叱られるから帰ります。」と言って玄関にやってくる。介護職員や相談員が「自宅は売却してもう無くなってしまいました。」や、「旦那さんは5年前にお亡くなりになりましたよ。」と説明するも、その時は「あっ、そうだったわね。」と言って納得し、食堂まで誘導すると自分の席に戻るが、夕食が始まるまでに数分ごとに何度も同じことを繰り返す。「帰る」という言葉や行動は、夕方になると起きるが、日中は特に起きない。夜中もぐっすりと休んでいる。  廊下に置いてある車いすを勝手に部屋に移動させたり、洗濯室にある汚れた洗濯物をかごから出して畳んでいたり、「ほら、こぼさないで食べなさいよ。」「みそ汁もちゃんと飲んでね。」など周囲にお節介なところがある。男性利用者から「いちいち、うるさい！」と怒鳴られることがあった。しかし、Aさんは悪気がない様子である。 | | | | | | | |
| Ⅱ．受講生自身が感じている研修協力者の課題 | | | | | | | |
| 夕方の人出が少ない時間帯に繰り返し帰宅を訴え、他人への世話焼きでトラブルになる。  洗濯物や箸、コップなど勝手に部屋に持って帰り、たんすに隠したりする。  何度お願いしても変わらないので、ストレスになっている。 | | | | | | | |
| Ⅲ．研修協力者の概要 | | | | | | | |
| 年齢・性別 | | | 80歳代後半　　□ 男　　　　■ 女 | | | | |
| 学歴・職歴 | | | 尋常小学校卒　・　製糸工場　・　専業主婦 | | | | |
| 家族構成 | | | 独り暮らし | | | | |
| 認知機能 | | | HDS－R　11点 | | | | |
| 要介護度 | | | □要支援１　 □要支援２  ■要介護１　 □要介護２　 □要介護３　 □要介護４　□要介護５　 □認定外 | | | | |
| 日常生活自立度 | 障害高齢者  自立度 | | ■自立　 □Ｊ１　 □Ｊ２　 □Ａ１　 □Ａ２　 □Ｂ１　 □Ｂ２  □Ｃ１ □Ｃ２ | | | | |
| 認知症高齢者 自立度 | | □Ⅰ　 ■Ⅱａ　 □Ⅱｂ　 □Ⅲａ　 □Ⅲｂ □Ⅳ　 □Ｍ | | | | |
| ＡＤＬの状態 | | | ①食事の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |
| ②排泄の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |
| ③移動の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |
| ④着脱の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |
| ⑤入浴の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |
| ⑥整容の様子 | ■自立　 □一部介助　 □全介助 | | | |

※本シートは、認知症ケア高度化事業『ひもときシート』を参考に作成しています

|  |  |
| --- | --- |
| 認知症の診断名 | ■アルツハイマー型認知症　 □レビー小体型認知症  □前頭側頭型認知症　　　 　 □血管性認知症  □その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  □不明 |
| 現病・既往歴 | 【現病歴】アルツハイマー型認知症 |
| 【既往歴】5年前に夫が脳内出血で突然死亡、それがきっかけでうつ状態になる。さらに1年ほど前からもの忘れが激しくなり、近所に何度も電話をかけたり、スーパーで同じものを大量に買うなど異常が見られるようになる。 |
| 服用薬 | アリセプト　・　ユーロジン　・　セルシン |
| ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力 | 理解力もあり、コミュニケーション能力は保たれている。 |
| 性格・気質 | せっかち　・　おせっかい　・　細かいことは気にしない |
| 生きがい・趣味 | 料理を作ること |
| 生活歴 | 農家の5人兄弟の長女として生まれる。尋常小学校を卒業後は製糸工場に勤める。工場ではラインの長を任されるなど、自他ともに仕事のできる人であった。19歳で見合いで2歳年上の男性と結婚する。夫は結婚直後に満州に従軍し、終戦後はトラックの運転手として働く。子供をもうけることはできず、夫の兄弟から養子をもらい受け、大事に育てていたが、8歳の時に病死した。その後は仕事をせずに専業主婦として、長距離トラックの夫を支える。 |
| 人間関係 | 60歳の時に子宮がんを患い手術をする。それをきっかけに精神状態が不安定になり、家に引きこもることが多くなる。夫は65歳までトラック運転手をし、67歳までビルの守衛などをして働く。夫の定年後は2人のんびりと畑仕事をしながら暮らす。5年前夫が脳内出血で突然死亡、再びうつ状態になる。1年ほど前からもの忘れが激しくなり、近所に何度も電話をかけたり、スーパーで同じものを大量に買うなど異常が見られるようになる。民生委員が地域包括支援センターのケアマネジャーに相談し、ショートステイの利用が決まった。 |
| 本人の意向 | ご飯を作らないと、旦那に叱られるから帰る |
| 研修協力者の事例が発生した場所 | □介護老人福祉施設　□介護老人保健施設　□介護療養型病床  □デイサービス　　　□デイケア　　　　　□小規模多機能型居宅介護  □グループホーム　　□一般病床　　　　　□精神科病棟  □地域　□自宅　　　■その他（　ショートステイ　） |

※本シートは、認知症ケア高度化事業『ひもときシート』を参考に作成しています